

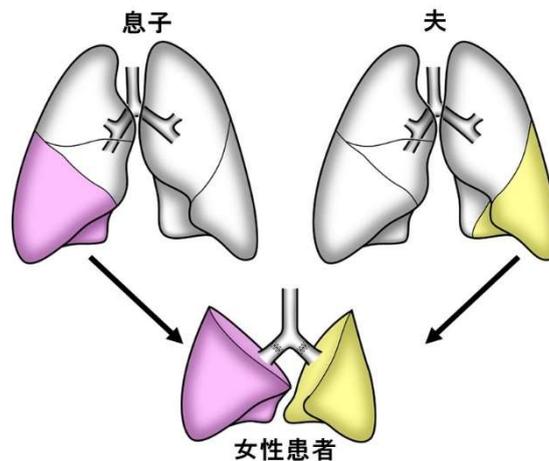
2021年8月19日

新型コロナウイルス感染後の肺障害に対する生体肺移植患者の 退院（転院）報告

概略

8月16日に、新型コロナウイルス感染後の肺障害に対する生体肺移植を受けた患者が、京都大学医学部附属病院より退院（転院）しましたので、報告します。

患者は、関西地区在住の女性で、手術当時、新型コロナウイルス感染に対するECMOでの治療を約3か月続けていました。本年4月7日に、息子の右肺の一部を患者の右肺として、夫の左肺の一部を患者の左肺として移植しました。この手術は、新型コロナウイルス感染後の生体肺移植としては、世界で初めての手術でした。



経過

ドナー二人（患者の息子と夫）の回復は順調で、すでに社会復帰されています。レシピエント（患者）は、術前状態が悪かったため回復には時間がかかりました。現在は、酸素吸入なく、室内歩行が可能な状態まで回復しています。自宅退院にむけて、紹介病院にリハビリテーション目的で転院となりました。

手術直後：ECMOから離脱

13日目：人工呼吸器からの離脱開始

26日目：ICUから一般病棟に移動

60日目：歩行訓練開始

75 日目：人工呼吸器から完全に離脱

131 日目（8 月 16 日）：リハビリテーション目的に転院

患者のコメント

退院に際し、患者より以下のコメント（原文まま）をいただきました。

-----ここから-----

京都大学医学部附属病院より退院させていただきます。

この度は、私共の回復に向けて、後押しをして下さいました関係者の皆様方に深く感謝致しております。

医療従事者の日々の波々ならないご尽力には、頭が下がります。
無理することも多いでしょうが、お体をご自愛ください。

私も、合併症など体調に注意していきます。
お世話になりました。ありがとうございました。

-----ここまで-----